

調査と発表を中心にした実践的話し方指導の試み

— 『実践力のつく日本語学習』インタビュー編および同アンケート編¹⁾について —

谷口 聡人（東海大学留学生教育センター）

1. はじめに

初・中級の話し方や会話の教育では、テキストに出てくる文型や語彙を使った会話文の暗記や役割練習という形で、ある場面や対人関係において想定される日常会話ができるようになることを目標に進められることが多いと思われる。また、それに続けて次には学習段階に応じたテーマやトピックを示して、「さあ、グループで話し合ってみましょう」とか「自分の意見を言いなさい」というような指導が一般的になされてきたように思われる。ところで、このような指導法で効果を上げるには事前・事後のさまざまな準備や配慮が必要とされるであろう。そうしないと、多様な学習者の存在するクラスでは興味を示す学習者とそうでない学習者がいたり、よく話すのはいつも同じ人になってしまったり、また練習の目的が十分認識されなかったり、そのために雑談のように流れてしまい満足感が得られない、などなどの問題が起こりがちである。そのために十全の準備や行き届いた指導、適切な助言やフィードバックなどの必要性を教師は自覚し、その対応に試行錯誤しているが、なかなか十分には手が回らず不満足な結果になってしまうことが多いというのが実状ではなかっただろうか。

私たちはこのような認識と反省に立って、さらに一歩進んだ知的内容のある話題について、真のコミュニケーションに近い経験を通して話す力と方法を身に付けさせる、より良い話し方の指導方法を模索してきた。その試みをまとめたのがここに紹介する『実践力のつく日本語学習』である。

なお、本書には「インタビュー編」と「アンケート編」があり、前者は初・中級者を、後者は中・上級者を対象として想定し、学習活動は文字どおりインタビューとアンケートの違いはあるが、背景となる考え方や目標は異ならないので、両者をまとめて論じることにした。また、本書は発表者を含めて3名の共著によるものである。

2. 本書の目的

クラスで発表する（話す）ことが学習活動の目標となるが、その前後の過程でいわゆる四技能の訓練も組み込まれており、その意味で総合的な学習活動を導くものとなっている。インタビューやアンケートを準備する前に話題についての予備知識や論点を知るために読む。グループで作業の進め方や分担を決めたり、集まったデータを整理したり分析するために話す。教室の内外で情報収集のために、また他の人の意見や発表を聞く。アンケート用紙を作ったり、データをまとめたり、発表のための原稿を用意したり、レポートを作成するために書く。これらの活動を通して日本語力を高め、同時にその過程で多くの人に接し情報収集や意見交換をすることにより、相互理解や異文化理解を深めることをも意図している。

これらのことを、さらに箇条書きにすれば以下のようなことである。

- (1) 話すことを重視するが、同時に聞くこと・書くこと・読むことのバランスにも配慮した統合的な学習活動を導くこと
- (2) コミュニケーション能力を高めること
- (3) 目的の明確な情報収集・処理の過程を経ること
- (4) 問題解決のための自律的学習へのステップとすること
- (5) 多様な学習者がそれぞれに興味を持ち、自らの問題として取り組むことができるようなテーマや方法を組み込むこと

これらの事柄が、教室においてはペアワーク・グループワーク等のさまざまな学習形態を通して、また教室外では未知の日本人との多様なインターアクションを通して実現されるよう意図している。

3. 対象者

日本の大学・大学院に学ぶ、あるいは入学を目的に準備している留学生を念頭に置いているが、教室で学んでいる広く一般の日本語学習者にも用いるであろう。

4. 内容と特色

調査と発表を学習活動の中心にしたグループ・プロジェクト自身は新しいものでも独自のものでもない。特色があるとすれば、活動の各段階を定式化し、各々の段階の活動に必要な教材（調査用紙など）を用意したことと、一連の学習活動に対する動機付けを支えるためにさまざまなテーマを取り集めたことであろう。学習者にとってはこのようなまとまりの定まった方法による学習活動を何度か経験することによって、知的な一技法の基礎を体得することになるであろうし、また、教師にとっては教材のリソースとして自在に用いてもらえるものと思う。

4.1 目次（取り上げた話題）

末尾に「インタビュー編」「アンケート編」それぞれの目次を掲げる。（資料1）
（紙幅の都合で両者を重ねて掲げたため見にくくなっているが、許されたい）

4.2 各課の構成

(1) イントロダクション

テーマに対する興味、関心を引き出すための短い読み物や新聞記事、またはテーマに関係する資料等が掲げられる。簡単なタスクや記事の内容理解を確認するための「要点整理」と、語句や文型が取り出されている。

(2) 調査用紙

調査のための質問項目とそれらの答えの選択肢から成っているが、課によっては答えの理由を問う箇所もある。

(3) 調査の概要と結果（記入用紙）

調査の結果を集計し分析するために、人数を書き入れたり、答えの理由をまとめたりするのに用いる。

(4) 調査報告（発表のフォーマット）

調査の結果を口頭で発表するための基本的な枠組みを示した。適宜数値や語句を補って利用する。課が進むにしたがってこの枠組みに捕らわれることなく、学習者の自由な発想で準備し、発表できるようになることが望ましい。また、レポートや論文を作成するための、書き方の基礎練習ともなるであろう。

具体例として「アンケート編」の第1課を、資料2として末尾に掲げたので参照されたい。

4.3 学習活動と指導法

4.3.1 学習活動の概要

日本の社会問題やその調査に関する新聞記事を読んで、クラス内でそれについて話し合う。つぎにその新聞記事や話し合いをもとに、実際に自分たちの身の回りではどうか、記事の内容を直接自分たちで確認できるようなアンケート調査を試みる。教室外で日本人の学生や一般の人々に働きかけてアンケートを実施する。その回答を持ち寄り、整理し、まとめて、口頭発表したりレポートを書いたりする。またさらに、テーマによっては討論やディベートに発展させるなど、レベルや学習時間に応じてさまざまな教室活動に結びつけていく。このように教室内外で実際にコミュニケーションすることを通じて言葉（日本語）の面での経験を積むと同時に、学習者の相互理解や日本の社会や文化に対する理解をも深める。（「アンケート編」）

4.3.2 指導法

基本的な指導方法と手順、学習活動を以下に掲げる。（「アンケート編」）
また、学習者に示す大まかな活動の内容と全体の流れを、末尾資料3に掲げる。

	教師の指示・作業	学習者の活動
1	あるテーマについて学習者の興味・関心を引き出す（話題の提供、質問の準備など）。	教師の話を聞く。質問に答える。テーマに関連した体験を思い出す。
2	課の始めにある新聞記事を読ませ、テーマに関する予備知識を与える。次のページにある「要点整理」をさせる。	新聞記事を読む。 「要点整理」を行なう。
3	記事の内容に関して話し合わせる。	記事について話し合う。賛成・反対意見、具体的な経験などを述べる。

(つづき)

	教師の指示・作業	学習者の活動
4	<p>〔アンケート調査の準備〕 調査表の各項目に目を通させ、質問を受ける。</p>	<p>調査表の各項目に目を通し、分からないところは先生に質問する。</p>
5	<p>全員を4, 5人ずつグループに分ける。(これ以降はグループ作業) アンケート調査の対象者・人数・実施方法・回収方法・結果の整理・作業の分担などについて決めさせる。</p> <p>(調査の方法は、インタビューによる場合と質問紙配布による場合とがある)</p>	<p>グループごとにこれから行なう調査の準備・実施・回収・整理などについて話し合っ決めて。</p> <p>作業は、全員が公平に分担して受け持つ。</p>
6	<p>〔アンケート調査の実施〕 アンケート調査を実施させる。</p> <p>依頼したりインタビューしたりする場合の言葉や注意、郵送による場合の依頼状の形式など、必要に応じて指導し、練習しておく。</p>	<p>アンケートを依頼するときの言葉や注意を確認し、練習する。</p> <p>みんなで決めたことに従ってアンケート調査を実施する。</p> <p>疑問な点があったら先生に質問したり助言を求めたりする。</p>
7	<p>〔調査結果のまとめ〕 回答を持ち寄り、グループごとに「調査の概要と結果」に整理させる。</p> <p>(場合によってこの作業はクラス外の作業として行わせてもよい)</p>	<p>各自の調査表を持ち寄り、「調査の概要と結果」の用紙にグループの結果を集計し、まとめる。</p>
8	<p>調査結果を口頭で報告するための準備をさせる。(「2. 上手な発表をするために」²、「3. 発表の言葉(具体例)」³を参照)</p>	<p>「調査の概要と結果」をもとにクラスで報告するための準備をする。「調査結果の報告」を参考にす。発表の方法や分担を決める。</p>

(つづき)

	教師の指示・作業	学習者の活動
9	<p>〔調査結果の報告〕 順次グループの報告をさせる。 自分の発表の準備ばかりに気を取られないでほかの人の発表をきちんと聞き、必要なことはノートやメモを取るよう指示する。 「発表採点表」^{・4}によって互いに評価をさせる。</p> <p>あとで適切にフィードバックできるよう注意点などを書き留める。 (場合によっては録音やVTR収録なども考えられる)</p>	<p>グループごとに報告する。 全員によく伝わるよう話し方を工夫する(声の大きさ、話す速さ、ポーズ、くり返し、ことばの言いかえなど)。また、視覚資料(ハンドアウト、黒板、OHP、図・写真など)も適宜利用する。 発表の最後には自分たちの意見や感想をつけくわえる。 ほかの人の報告もきちんと聞いて、必要なことを書き留めたり、質問したりする。 ほかの人や、グループの報告に対する自分の評価を「発表採点表」に記入する。</p>
10	<p>〔フィードバック〕 発表のあと、言語表現・非言語表現・準備の状態・発表の手順・方法などの面からフィードバックを行う。 「発表採点表」による採点結果を無記名で発表することなども。</p>	<p>先生の注意やコメントから自分の発表を振り返る。 ほかの人たちの採点結果も参考にして次回の発表ではどのようなことに注意すべきか考える。</p>
11	<p>発表のあと討論に発展させたり、発表した内容をもとにレポートを書かせたり、学習状況に合わせて次の活動(個人またはグループの)に結びつけてゆく。</p>	<p>討論の準備やレポートの作成など、先生の指示に従って行う。</p>

以上示したのは、基本的な授業展開のパターンであって、必ずしもこれに従う必要はない。授業展開も教材そのものも、クラスの状態に合わせてさまざまにアレンジすべきである。特にグループの構成、作業や発表の割り当て方を(学習者自身の話し合いによる決定を尊重するが)クラスの状態に合わせて変えることによって、学習者の参加の姿勢が変わる。

また、課の配列はある程度難易を考慮して並べたものだが、これも順番通りに進める必要はなく、学習者のレベルや慣れに応じて適宜採用すべきである。

4.3.3 発表の方法

課によって異なるが、学習段階やクラスの人数等の状況に合わせて、次のようないくつかの発表の仕方が考えられる。(1)～(3)から適宜採用して発表をさせる。

(1) 個人発表

① 調査対象が一人だった場合（ペアワークなど）

相手から得た情報をもとに、その人物を皆に紹介する。その人物が誰であるかは伏せておいて、紹介の後で誰かを当てさせるなどのゲームを織り込んでよい。

② 調査対象が複数あるいはクラスの全員である場合など

調査した相手の人たち全員の回答を集計し、そのまとめを個人別にクラスで発表する。

(2) グループ発表

① 同一の調査を複数の人が、またはクラスの全員が行った場合（一人が一人を対象に）

調査し終わった調査用紙を、全員が調査項目ごとに切り離し、項目別に集める。項目の数と同じ数のグループを作っておく（人数は多少片寄ってもかまわない）。集められた一つの項目につき1グループが担当して集計する。その結果とそれについてグループ内で話し合われたことをもとに、各グループの代表が発表する。

② グループごとに異なった調査を行った場合

同時にいくつかの異なった課をグループ別に担当して調査を行う。グループごとに調査結果を発表することになるが、グループ内で調査項目別に集計や発表の担当者を決めて行う。

(3) 総まとめの発表

上の(2)の①に続く。調査項目別の発表の際に、他グループの発表内容を全員がそれぞれ書き留める。ここでは外の人やグループの発表に注意を払わせるのが目的である。全グループの項目別発表が終了したところで、再びグループごとに集まって、今度は全項目についてまとめる作業をする。まとめられた全体の集計結果について、グループ内で話し合い、そこで調査結果の全体像をつかむ。再びグループごとに代表（複数でもよい）が調査全体についての発表を行う。

5. おわりに

この教材による授業の客観的・科学的な評価は無い。したがって、以下は主観的な自己評価や印象の類いだが、著者自身にとってはこれまでバラバラだった教材を一冊にまとめたことによる授業準備に関わる手間の軽減は、物理的にも心理的にも大きいものがあり、授業の組み立てが楽になった。楽になった分、さらに細かい配慮や準備が可能になった。

できるだけ今日的で留学生の興味を引くようなものを話題に選んだので、学習者にとってもテーマの選択の幅が広がった。これは動機付けを刺激するものと思われる。

フォーマットに沿って作業が進められるので、学習者は取り組み易く感じるようである。ただし、マンネリ化もするので、様子を見つつ適宜グループを改編したり、自主的なテーマに移行させ自ら調査計画を立案し実施させたりすることも忘れるべきでない。

断片的にはあるが学習者の反応から、このような方法に慣れることが将来役に立つと考えている学生がいることが分かった。学部1年の留学生に聞き取り調査（ニーズ調査）した黒羽(1994)の報告によれば、「別科で勉強した『実践力のつく日本語学習 インタビュー編』は、大学で役に立つのもっとしたかった。」との回答があったという。⁵

注

*1 「インタビュー編」は1992年、「アンケート編」は1993年刊行。いずれも以下の3名による共著で、発行所は株式会社アルク。

堀 歌子（東京大学・早稲田大学非常勤講師）、野村美知子（東京大学・獨協大学・大東文化大学非常勤講師）および本発表者、谷口。

*2 2. 上手な発表をするために

発表前準備

(1) 発表原稿を作る

- ① 調査の目的をはっきり述べる。
- ② 調査から得たものは何であるか強調すべき点をあげる。
- ③ 具体的なデータに基づいて客観的に述べる。
- ④ 文章はできるだけわかりやすいものにする。
- ⑤ 発表内容の構成を考える。
 - 導 入——何をなぜ調査したかを手短かに述べる。
 - 本 論——調査の方法や結果の分析について説明し、考察する。
 - まとめ——調査結果について意見・感想などをまとめる。

(2) 発表形式を考える

発表を効果的にするために、内容によってはポスター・OHP・スライド・図・表・グラフ・絵など適当なものを使ってわかりやすい方法を考える。

(3) 練習

- ① 要点をカードにメモし、繰り返し練習し、原稿を見なくても話せるようにする。
- ② VTRやテープレコーダーを使用したり、他の人に聞いてもらったりしてリハーサルをする。

(4) その他

- ③ 必要なら配布するハンドアウト・資料などを準備しておく。
- ④ 予測される質問に対して答えを考えておく。

発表時

- ① 皆に聞こえるように声の大きさを適切にする。
- ② 聞いている人の反応を見ながら話す。
- ③ 発音や語尾をはっきりと、特にキーワードはゆっくり話す。
- ④ できれば適当にユーモアを入れる。
- ⑤ 落ち着いた態度で、視線も自然に適当に移す。
- ⑥ 与えられた時間内にきちんと発表できるようにする。
- ⑦ 黒板に図や表をはったりOHPなどを使うときは手ぎわよくする。

*3 発表の言葉（具体例）

(1) 前置き

〇〇大学の〇〇と申します。

私たちの研究グループは、昨年から「〇〇大学における学生生活実態調査」というテーマで、さまざまな角度から調査を行なって参りました。本日はそのうちの一部「アルバイトの目的」に関する調査結果がまとまりましたので、それを報告致します。

(2) 調査（研究）の目的

本調査は「……………」を明らかにすることを目的としています。／本研究の目的は「……………」ということです。

(3) 調査の方法

調査はアンケートに無記名で答えてもらうという方法を取りました。／…………という方法で行いました。

〇〇大学の学生〇〇人を無作為に選び、アンケート用紙を配りました。／インタビュー（面接調査・聞き取り調査）しました。

回収率は〇〇パーセントでした。

(4) 調査結果と分析

では、まずお手元の資料の〇〇ページをご覧ください。このグラフはアルバイトの目的別の割合を示しています。

まず目につくのは、旅行やレジャーに使うためのお金を得ることを目的としている学生が非常に多いことです。全体の〇〇%にもなっています。

次に多いのは生活費のためにで、意外にも〇〇%近くにも及んでいます。これは最近の学費や物価の値上がりを反映してのことかと思われます。

そのほかの目的では、……………

その下に示しました表は、男女別に見た場合の目的別の割合です。これによると女子学生の場合は男子に比べて、ショッピング目的のアルバイトが多いことが分かります。

また、学年別、学部別の表も次のページに掲げました。

(5) 全体のまとめと感想

以上見て参りましたように、本調査の結果から「……………」ということが分かりました。また、「……………」ということも言えそうです。／うかがわれます。

(6) 今後の課題

今後私たちのグループでは、さらに〇〇などについても調査を進める予定です。

後日、また別の機会にご報告させていただきます。

(7) 結び

以上で私たちの発表を終了致します。／終わらせて頂きます。

ありがとうございました。

(8) 質問や意見を受ける

なにかご質問やご意見がございましたら、お願い致します。

*4 4. 発表採点表

- 発表者の報告を聞いて、点数1点～5点（良くない：1点、あまり良くない：2点、普通：3点、かなり良い：4点、たいへん良い：5点）を書き入れなさい。

採点者名 _____

発表者名と題	内容	文法	発音	印象	合計
	話のおもしろさ、構成はどうか	文法、表現上の間違いはないか	はっきりとわかりやすいか	表現力やなめらかさはどうか	

*5 黒羽友子 「別科日本語研修課程におけるニーズ調査」 平成5年度東海大学日本文学
研究科日本語教育学専攻修士論文、1994。

目次

本書の内容と使い方	5
インタビュー調査(準備から結果発表まで)	11
インタビューの表現	12
§ 1 朝ごはんについての調査	13
§ 2 生活時間調査	19
§ 3 好きなものについての調査	25
§ 4 持ちものについての調査	
§ 5 旅行についての調査	
気分転換 私たちのクラスのベスト	
§ 6 健康調査	
§ 7 日本語を使う場面についての	
§ 8 カードについての調査	
§ 9 読書についての調査	
§ 10 日本人の印象についての調査	
自分でやる課 希望についての調査・通字	
§ 11 失敗についての調査	
§ 12 困っていることについての調	
§ 13 ホームステイについての調査	
§ 14 自動販売機についての調査	
§ 15 環境保護についての調査	
留学生が実際に行った調査報告「	
さくいん	

目次

●本書の内容と使い方	5
I 本書の概要	5
II 使い方	7
III アンケート調査・準備から発表まで	10

第1部

§ 0 入門の課	16
§ 1 物価高についての調査	24
§ 2 学生の生活実態調査	32
§ 3 落とし物についての調査	40
§ 4 金銭感覚調査	48
§ 5 結婚についての調査	58
§ 6 国際交流と生活価値観調査	65
§ 7 就職意識調査	74
§ 8 子供の遊び場についての調査	83
§ 9 原子力発電についての調査	90
§ 10 騒音についての調査	97

第2部

●第2部の使い方	108
§ 11 カラオケについての調査	110
§ 12 男女の役割分担についての調査	113
§ 13 高校生の意識と生活調査	116
§ 14 体力、スポーツについての調査	119
§ 15 辞書についての調査	122
さくいん	125

語句・文型

【語句】

- 物価高
 - 断トツ
 - 国際比較
 - 水準
 - 内外価格調査
 - 開き
 - ほぼ
 - 背広上下
- やはり
 - 経済企画庁
 - 貨産品
- 割高
 - 物価リポート
 - 割安
- 品目
 - 小売価格
 - 総合的な

§1 物価高についての調査

東京生活やはり「割高」

世界5都市の
29品目の物価比較
コメ、牛乳が断トツに

経済企画庁は九日、「物価リポート'91」を発表した。東京やニューヨーク、ドイツ・ハンブルク、ロンドン、パリの五都市で二十九品目について調べた小売価格の国際比較(表)によると、ティッシュペーパーなど庶産品は、東京の方が外国の都市より割安だが、コメやガソリン、牛乳などは東京の方が割高になっている。ニューヨーク、ハンブルクとの総合的な物価水準の比較では前回に比べわずかながら格差が広がった。

物価リポートで、内外価格調査を扱うのは今年が三回目。調査品目のうち、東京の方が四都市すべてより高かったのは十一品目で、三都市より高かったのは四品目。逆に、東京の方が四都市すべてより安かったのは五品目だった。

品目別の価格差を見ると、コメ(十^〇)は東京がパリの二倍、差の小さいロンドンとでも一・五倍の開きがある。ガソリン(一^〇相当たり)は東京がニューヨークの三・四倍だが、パリよりは三%安くなっている。牛乳(一^〇)は東京がニューヨークとハンブルクの二・八倍。

(これに対し、写真の焼き付け代(一^〇相当たり)は東京とハンブルクはほぼ同額で、東京はパリの半額、ロンドンの三分の一となっている。洗濯代(背広上下)は東京の方がニューヨークを除く三都市より二・四割安い。

また、東京とニューヨーク、ハンブルクの間の物価水準(総合)は、東京がニューヨークに比べて三二%、同ハンブルクに比べて二四%、それぞれ高いと試算されている。

【表の語句】

- 単位
- 鶏卵
- 男子革靴
- 観覧料
- 為替レート

【文型】

1. 割高になって
写真の焼き付
2. 洗濯代は東京

品目	単位	東京 (円)	換算価格(円)			
			ニューヨーク	ハンブルク	ロンドン	パリ
米	10kg	3716	1900	2240	2484	1823
食パン	1kg	396	421	402	172	633
ナイロン	300g	154	84	123	81	113
サッポロ	100g	255	270	232	284	192
牛肉(原料)	100g	139	117	188	129	163
牛乳	1ℓ	202	112	110	127	134
卵	1kg	380	239	458	439	494
タバコ	1kg	218	154	158	180	238
オレオ	1kg	511	194	228	297	199
オパ	1kg	235	161	192	309	292
グラニュー	1kg	292	146	171	162	183
チョコ	85g	275	254	165	175	174
紅茶	25袋	352	197	225	132	237
コーヒー	1缶	100	65	57	51	63
ビール	1缶	240	92	158	129	90
ハンバーガー	1個	381	340	373	388	467
ティッシュペーパー	5箱	559	824	1686	2246	1568
家政婦給料	1日	7360	10720	9028	8538	13421
男子革靴	1足	10360	11178	14315	12181	11453
洗濯代(背広上下)	1着	942	944	1202	1539	1503
ガソリン	1ℓ	142	42	101	109	146
駐車料	1回	477	1129	195	322	213
コンパクトディスク	1枚	2340	2199	2665	2989	3266
雑誌	1冊	380	323	399	355	439
月謝(音楽)	1月	6821	26720	8247	9836	11873
映画観覧料	1回	1614	936	955	1415	1000
写真焼き付け代	1枚	31	70	30	106	63
理髪料	1回	3007	2959	2583	3174	2433
パーマメント代	1回	5989	11252	5370	11316	7601

○1990年11月調査。◇換算に使用した為替レートは1990年11月平均。
1\$=129.08円、1£=86.81円、1¢=23.50円、1¥=25.81円

(1991年10月10日の朝日新聞より)

資料 2 (2)

要点整理

新聞記事を読んで、空欄に適切な言葉や数字を入れなさい。

調べた機関	
調査した都市	
調査した時期	年 月
調べた小売価格の品目数	品目
東京の小売価格がほかの4都市より高かったのは	品目
東京の小売価格がほかの3都市より高かったのは	品目
東京の小売価格がほかの4都市より安かったのは	品目

31 物価高についての調査

空欄に、東京の小売価格を選んで書き入れなさい

調査用紙

たいへん
たいへん
あまり変

日本に来て、皆さんも物価の高いのに驚いているのではありませんか。そこで、日本の物価高について調べてみることにいたしました。次の質問にお答えください。

ご自身について		出身国：		性別：男性・女性	
来日後： 年 月		住んでいる所：		都道	市区

以下の質問には、該当する番号に○をつけるか、あるいは空欄に記入するかしてください。(いくつでもかまいません。)

- 次の中で、本国での値段と比べてあなたがいつも高いと感じているものは何ですか。
 - ① 食料品 ② 日用品 ③ 衣料品 ④ 交通費 ⑤ 水道・光熱費
 - ⑥ 通信費 ⑦ 書籍・文具 ⑧ 外食費 ⑨ 医療費 ⑩ 住居費
 - ⑪ 学費 ⑫ その他()
- 日本のほうが安いのは何ですか。(具体的に)

- あなたの1か月の生活費で、いちばんかかるものは何ですか。
 - ① 食費 ② 家賃(部屋代) ③ 本・文房具代 ④ 娯楽・交際費
 - ⑤ 電話代 ⑥ 洋服代 ⑦ 交通費 ⑧ その他()
- 日本の物価が高いのは、どんなことが原因だと思いますか。(いくつでも可)
 - ① 原料を外国から輸入している物が多い。
 - ② 流通が複雑である。
 - ③ 労働力が不足している。
 - ④ 過剰包装などに無駄なお金をかけすぎる。
 - ⑤ 消費者が、少しくらい高くても気にせずに買う。
 - ⑥ 働いている人の賃金が高い。
 - ⑦ 政府が物価を抑える努力をしていない。
 - ⑧ その他()

東京、ニューヨーク、
ーヨークより _____ %、

3. あなたの1か月の生活費で、いちばんかかるものは何ですか。
① 食費 ② 家賃(部屋代) ③ 本・文房具代 ④ 娯楽・交際費
⑤ 電話代 ⑥ 洋服代 ⑦ 交通費 ⑧ その他()

4. 日本の物価が高いのは、どんなことが原因だと思いますか。(いくつでも可)
① 原料を外国から輸入している物が多い。
② 流通が複雑である。
③ 労働力が不足している。
④ 過剰包装などに無駄なお金をかけすぎる。
⑤ 消費者が、少しくらい高くても気にせずに買う。
⑥ 働いている人の賃金が高い。
⑦ 政府が物価を抑える努力をしていない。
⑧ その他()

ご協力どうもありがとうございました。

調査の概要と結果

[調査の概要]

調査者： _____
調査の時期 (期間)： _____ 年 _____ 月 (～ _____ 年 _____ 月)
調査の対象： _____
調査の方法： アンケート調査 (面接聞き取り / 郵送配布)
調査の目的： 日本の物価高について、日本在住の外国人の人はどのように感じているのか。高いものは何か。また安いものは何かなどについて調べる。

[調査結果の集計]

調査用紙配布数	部
回答者の 出身国別人数

調査報告

1. 本国での値段と比べて

① 食料品 人	② 日用品 人
⑥ 通信費 人	⑦ 書籍・文 人
⑪ 学費 人	⑫ その他 () 人

2. 日本のほうが安いのは

① 人	② 人
⑥ 人	⑦ 人

3. 1か月の生活費で、い

① 食費 人	② 家賃 () 人
-----------	---------------

日本に来て、皆さんも物価の高いのに驚いているのではありませんか。そこで、今回私たちは日本の物価高について調べてみることにいたしました。私たちも含めて、日本で生活している外国人の人は、どのようなものを高いと感じているのでしょうか。また、日本のほうが安いものは何でしょうか。そのようなことについて調査してみましたので、その結果を報告いたします。

調査の概要を先に申し上げます。

調査の目的はただいま述べたようなことです。

この調査を行ったのは _____ さんと _____ さん(と……)、それに私 _____ です。(私が代表してお話しいたします。)

調査の方法はアンケートによるもので、直接会って聞き取りました / 郵送で配布しました / 直接配布し、記入してもらったものをあとから回収しました。

調査の対象としたのは、今回は、この同じ学校で学んでいる留学生 _____ 名の方たちです。回収率は _____ %でした。これらの人々の男女別の人数ですが、男性 _____ 名、女性 _____ 名です。また、国別にみると、 _____

調査を実施したのは、今年の _____ 月 _____ 日から _____ 日間です。

ではこれから、その結果を発表いたします。

アンケートのはじめの質問は、「本国での値段と比べて、いつも高いと感じているものは何か」というもので、12の選択肢の中から選んで丸を付けてもらいました。複数回答です。その結果、高いと感じているものでいちばん人数の多かったのは _____ で (_____ 人)、次は _____ で (_____ 人)、以下、順に _____

この結果を見ると、多くの人たちが _____ ということがわかると思います。

資料3

アンケート調査・準備から発表まで

1. 全体の流れ

アンケートの前に

- ① テーマについて予備知識を得る。
 - ・新聞記事、資料などを読む。
 - ・話し合う。
 - ・意見の交換をする。
 - ・読んだ物の要点整理をする。
 - ・その他
- ② ことばの準備をする。
 - ・調査用紙に出ていることば、文型・文法について勉強しておく。
 - ・アンケート調査に必要な表現を学ぶ。
 - ・その他
- ③ ことば以外に気をつけることを学ぶ。
 - ・調査用紙・手紙の形式
 - ・その他

アンケートの実施

- ① アンケート調査用紙の配布（直接依頼または手紙－郵送－による依頼）
- ② 調査用紙を回収する。

アンケートの後で

- ① 調査の結果をまとめる。
- ② 調査の結果を発表する。
- ③ ほかの人の発表を聞いて質問したり意見を述べたりする。
- ④ 報告書を書く。

参考文献

- 岡崎敏雄・岡崎ひとみ 『日本語教育におけるコミュニカティブ・アプローチ』 凡人社、1990.
- 尾崎明人・J.V.ネウストブニー 「インターアクションのための日本語教育 –イマーシオンプログラムの試み–」 『日本語教育』59号(1986): 126-141.
- 言語表現研究会 『コミュニケーションのためのことば学』 ミネルヴァ書房
- 中村妙子・岩本祐生子・星野浩子 「集中日本語教育中級レベルにおける会話の位置付け、及びその指導」 『日本語教育』70号(1990): 107-123.
- バルダン田中幸子・猪崎保子・工藤節子 『コミュニケーション重視の学習活動1 プロジェクトワーク』 凡人社、1988.
- バルダン田中幸子・猪崎保子・工藤節子 『コミュニケーション重視の学習活動2 ロールプレイとディレクション』 凡人社、1989.